

経営学専攻 博士後期課程

<理念・目的、教育目標>

企業経営に関する理論研究と実務的な応用研究の両輪をバランスよく発展させ、創造的研究を行う。

博士後期課程では、研究者養成が中心であり、研究者養成のための修士課程だけでなく、高度職業人育成のための修士課程からも受け入れる。いずれの場合も、創造的研究を行い、独創性に富む専門研究者の育成をめざす。

<履修上の注意>

経営学研究科では、2016年度より、博士後期課程においてコースワーク制および科目の単位制を導入します。これに伴い、2016年度以降入学者と2015年度以前入学者では修了要件が異なりますので、ご注意ください。

博士学位の申請にあたっては、「博士論文申請ガイド」(大学院 HP 掲載)を確認の上、申請することが必要です。

【2016年度以降入学者】

1. 修了所要単位

論文指導科目(必修科目) 12単位以上修得

選択必修科目 3単位以上修得

博士論文

合計 15単位以上修得

※課程修了には、単位の修得のほか博士論文の審査ならびに最終試験に合格しなければなりません。

※博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された(掲載予定を含む)論文を1本以上含む必要があるのでご注意ください。なお、論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要です。

2. カリキュラムおよび履修上の指示

履修区分	科目名	単位	掲載ページ	履修上の指示	修了所要単位	
論文指導科目 (必修科目)	博士演習ⅠA	2	334	1年次必修	12単位以上 (修了所要単位に含めることができるのは12単位まで)	計15単位以上
	博士演習ⅠB	2	334			
	博士演習ⅡA	2	335	2年次必修		
	博士演習ⅡB	2	335			
	博士演習ⅢA	2	336	3年次必修		
	博士演習ⅢB	2	336			
選択必修科目	博士コースワークショップⅠA	1	337	・1年次より履修 ・どちらかでA評価以上を得るまで履修	3単位以上	
	博士コースワークショップⅠB	1	337			
	博士コースワークショップⅡA	1	338	・ⅠでA評価以上の修得者のみ履修可能 ・どちらかでA評価以上を得るまで履修		
	博士コースワークショップⅡB	1	339			
	博士コースワークショップⅢA	1	340	・ⅡでA評価以上の修得者のみ履修可能 ・どちらかでA評価以上を得るまで履修		
	博士コースワークショップⅢB	1	341			

3. 論文指導科目の履修について

論文指導科目(博士演習)は、12単位を超えて修得した単位は修了所要単位に含めることができません。また、選択必修科目(博士コースワークショップ)は6単位を超えて修得した単位は修了所要単位に含めることができません。

4. 開設科目および単位について

博士後期課程開設科目は、重複履修が可能です。

5. 必修科目および選択必修科目の履修について

休学等でその年次の博士演習を履修できなかった場合、該当学年より下の学年の科目を先に履修してください(例:1年次に秋学期休学をして翌春復帰した場合、2年目春学期に「博士演習ⅡA」、秋学期に「博士演習ⅠB」を履修し、「博士演習ⅡB」は3年目の秋学期に履修することになります)。

6. 博士コースワークショップの履修について

博士コースワークショップは、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲという3段階のステップからなり、博士コースワークショップの各科目は、副指導教員による指導授業と博士論文中間報告会によって構成されます。各ステップのAは春学期(原則、7月第1土曜日)、Bは秋学期(原則、12月第3土曜日)に各1回博士論文中間報告会が行なわれます。なお、Ⅰは研究計画(プロポーザル)、Ⅱは先行研究のサーベイ論文と博士論文を構成する章(少なくとも1章分)に該当する研究、Ⅲは博士論文の全体構成と主要な部分(章)に該当する研究で、いずれも論文もしくはそれに準ずる文書を提出し、研究報告を行います。毎年度1科目以上を履修してください。

ただし、Ⅱは、Ⅰの評価がA評価以上の修得者のみ履修可能で、同様に、Ⅲは、Ⅱの評価がA評価以上の修得者のみ履修が可能です。なお、1年次の春学期にⅠAを履修し「A」評価を得た場合、秋学期はⅠBではなくⅡBを履修することになります。

7. 修士課程設置科目の履修について

修士課程設置科目は修了要件には含まれませんが、自由に履修することができます。他専攻が設置する修士課程設置科目についても同様です。

【2015年度以前入学者】

1. 修了要件

2016年度以降も修了要件に変更はありません。課程修了には、3年以上在学し、かつ3年以上論文指導科目を修得してください。なお、2016年度より単位制を導入していますが、単位数による修了要件の計算はしませんので、ご注意ください。例えば1年次に「経営学特殊研究」の科目を修得した場合、2年次は「博士演習ⅡA・ⅡB」、3年次は「博士演習ⅢA・ⅢB」を修得することで、博士論文指導科目を修得したものとみなします。また、研究報告会(博士セミナー)の3段階のステップのクリア、および博士論文の審査ならびに最終試験に合格しなければなりません。

なお、課程博士(博士後期課程在学中の者)の学位申請に際して、従来実施していた予備審査は2016年度以降は行ないません。

2. 論文指導科目の履修について

2015年度まで開講していた論文指導科目「経営学特殊研究」・「会計学特殊研究」・「産業経済特殊研究」は、2016年度以降は開講しません。以下の表に従って履修してください。

但し、標準修業年限を超えて在学する学生は年度ごとに「博士演習ⅢA・ⅢB」を履修する必要があります(博士後期課程開設科目は、重複履修が可能です)。

学年	履修期	科目名	単位	掲載ページ
1年次	春学期	博士演習ⅠA	2	334
	秋学期	博士演習ⅠB	2	334
2年次～	春学期	博士演習ⅡA	2	335
	秋学期	博士演習ⅡB	2	335
3年次～	春学期	博士演習ⅢA	2	336
	秋学期	博士演習ⅢB	2	336
1年次～	春学期	博士コースワークショップⅠA	1	337
	秋学期	博士コースワークショップⅠB	1	337
	春学期	博士コースワークショップⅡA	1	338
	秋学期	博士コースワークショップⅡB	1	339
2年次～	春学期	博士コースワークショップⅢA	1	340
	秋学期	博士コースワークショップⅢB	1	341

※「博士コースワークショップⅠA～ⅢB」は修了要件には含まれませんが、ステップ判定を行うため、毎年度1科目以上を履修してください。

3. 博士コースワークショップの履修について

2016年度以降入学者用カリキュラムにおける「博士コースワークショップ」については、従来の「研究報告会(博士セミナー)」の代わりとなるもののため、修了要件に関わらず、2015年度以前入学者も履修してください。

4. 修士課程設置科目の履修について

修士課程設置科目は修了要件には含まれませんが、自由に履修することができます。他専攻が設置する修士課程設置科目についても同様です。

博士演習 I A

経営学専攻 各指導教員

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースの3段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の輪読あるいは報告に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習 I A では、博士コースのステップ 1 のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【到達目標】

博士コースのステップ 1 のクリアに求められる、主要先行論文のサーベイに基づく論点の開示、研究方法、博士論文の構成（章立て）、論文作成スケジュールの提示を含むプロポーザル論文を完成させる。

輪読や報告に対しての、教員による質疑および助言、批判、評価を通して、質の高い博士論文執筆に向けての高度な専門知識を身につけることができる。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を 1 本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【授業の進め方と方法】

研究テーマに基づく、主要先行論文のサーベイ、研究方法、博士論文の構成などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースのステップ 1 のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマと計画の報告	研究テーマや計画、現状の研究成果を報告する
第 2 回	主要先行論文サーベイの報告①	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第 3 回	主要先行論文サーベイの報告②	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第 4 回	主要先行論文サーベイの報告③	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第 5 回	研究方法の報告①	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第 6 回	研究方法の報告②	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第 7 回	研究方法の報告③	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第 8 回	博士論文の構成の報告①	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第 9 回	博士論文の構成の報告②	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第 10 回	プロポーザル論文執筆指導①	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法、博士論文構成に基づいたプロポーザル論文執筆の指導をうける
第 11 回	プロポーザル論文執筆指導②	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法、博士論文構成に基づいたプロポーザル論文執筆の指導をうける
第 12 回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第 13 回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第 14 回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理
第 15 回	「研究計画書」の再検討	博士コース中間報告会での指摘事項により、「研究計画書」の再検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿の状況などを総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

「博士コースワークショップ」授業との連携を高める。

【その他の重要事項】

受講生には断った上で、受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することは想定される。

博士演習 I B

経営学専攻 各指導教員

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースの3段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の輪読あるいは報告に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習 I B では、博士コースのステップ 1 のクリアに求められる水準の「研究計画報告書」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

なお、ステップ 1 をクリアしている場合は、博士演習 II A のシラバスの内容を実施する。

【到達目標】

博士コースワークショップ I での「研究計画書」で求められる、主要先行論文のサーベイに基づく論点の開示、研究方法、博士論文の構成（章立て）、論文作成スケジュールの提示を含むプロポーザル論文を完成させる。

輪読や報告に対しての、教員による質疑および助言、批判、評価を通して、質の高い博士論文執筆に向けての高度な専門知識を身につけることができる。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を 1 本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【授業の進め方と方法】

研究テーマに基づく、主要先行論文のサーベイ、研究方法、博士論文の構成などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースのステップ 1 のクリアに求められる水準の「研究計画書」の完成を目指す。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマと計画の報告	研究テーマや計画、現状の研究成果を報告する
第 2 回	主要先行論文サーベイの報告①	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第 3 回	主要先行論文サーベイの報告②	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第 4 回	主要先行論文サーベイの報告③	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第 5 回	研究方法の報告①	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第 6 回	研究方法の報告②	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第 7 回	研究方法の報告③	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第 8 回	博士論文の構成の報告①	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第 9 回	博士論文の構成の報告②	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第 10 回	プロポーザル論文執筆指導①	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法、博士論文構成に基づいたプロポーザル論文執筆の指導をうける
第 11 回	プロポーザル論文執筆指導②	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法、博士論文構成に基づいたプロポーザル論文執筆の指導をうける
第 12 回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第 13 回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第 14 回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理
第 15 回	「研究計画書」の再検討	博士コース中間報告会での指摘事項により、「研究計画書」の再検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿の状況などを総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

「博士コースワークショップ」授業との連携を高める。

【その他の重要事項】

受講生には断った上で、受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することは想定される。

博士演習Ⅱ A

経営学専攻 各指導教員

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースでの3段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の輪読あるいは報告に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習Ⅱ Aでは、博士コースのステップ 2 のクリアに求められる水準の「サーベイ論文と構成章（論文）」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を進める。

なお、ステップ 1 をクリアしていない場合は、博士演習Ⅰ A のシラバスの内容を実施する。

【到達目標】

博士コースのステップ 2 の「サーベイ論文と構成章（論文）」で求められる、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも 1 章）を完成させる。

輪読や報告に対しての、教員による質疑および助言、批判、評価を通して、質の高い博士論文執筆に向けての高度な専門知識を身につけることができる。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を 1 本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【授業の進め方と方法】

承認・再検討された「研究計画書」に基づき、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも 1 章）の報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースのステップ 2 のクリアに求められる水準の「サーベイ論文と構成章（論文）」の完成を目指す。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	「研究計画書」の再検討の結果報告	「研究計画書」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第 2 回	先行論文サーベイと、研究報告①	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第 3 回	先行論文サーベイと、研究報告②	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第 4 回	先行論文サーベイと、研究報告③	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第 5 回	博士論文を構成する章の報告①	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも 1 章）の報告
第 6 回	博士論文を構成する章の報告②	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも 1 章）の報告
第 7 回	博士論文を構成する章の報告③	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも 1 章）の報告
第 8 回	博士論文を構成する章の報告④	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも 1 章）の報告
第 9 回	論文執筆指導①	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第 10 回	論文執筆指導②	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第 11 回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第 12 回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第 13 回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第 14 回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理
第 15 回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討	博士コース中間報告会での指摘事項により、「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿の状況などを総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高める。

【その他の重要事項】

受講生には断った上で、受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することは想定される。

博士演習Ⅱ B

経営学専攻 各指導教員

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースでの3段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の輪読あるいは報告に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習Ⅱ Bでは、博士コースのステップ 2 のクリアに求められる水準の「サーベイ論文と構成章（論文）」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を進める。

なお、ステップ 1 をクリアしていない場合は、博士演習Ⅰ B のシラバスの内容を、ステップ 2 をクリアしている場合は、博士演習Ⅲ A のシラバスの内容を実施する。

【到達目標】

博士コースのステップ 2 のクリアに求められる、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも 1 章）を完成させる。

輪読や報告に対しての、教員による質疑および助言、批判、評価を通して、質の高い博士論文執筆に向けての高度な専門知識を身につけることができる。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を 1 本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【授業の進め方と方法】

承認・再検討された「研究計画書」に基づき、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも 1 章）などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースのステップ 2 のクリアに求められる水準の「サーベイ論文と構成章（論文）」の完成を目指す。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	「研究計画書」の再検討の結果報告	「研究計画書」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第 2 回	先行論文サーベイと、研究報告①	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第 3 回	先行論文サーベイと、研究報告②	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第 4 回	先行論文サーベイと、研究報告③	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第 5 回	博士論文を構成する章の報告①	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも 1 章）の報告
第 6 回	博士論文を構成する章の報告②	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも 1 章）の報告
第 7 回	博士論文を構成する章の報告③	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも 1 章）の報告
第 8 回	博士論文を構成する章の報告④	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも 1 章）の報告
第 9 回	論文執筆指導①	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第 10 回	論文執筆指導②	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第 11 回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第 12 回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第 13 回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第 14 回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理
第 15 回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討	博士コース中間報告会での指摘事項により、「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿の状況などを総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高める。

【その他の重要事項】

受講生には断った上で、受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することは想定される。

博士演習Ⅲ A

経営学専攻 各指導教員

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースでの3段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の輪読あるいは報告に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習Ⅲ A では、博士コースのステップ3のクリアに求められる水準の「全体構想の提示と主要章（論文）」の執筆を目指す。

なお、ステップ1をクリアしていない場合は、博士演習Ⅰ A のシラバスの内容を、ステップ2をクリアしていない場合は、博士演習Ⅱ A のシラバスの内容を実施する。

【到達目標】

博士コースのステップ3のクリアに「全体構想の提示と主要章（論文）」で求められる、博士論文全体構想と、博士論文を構成する主要章となる論文を完成させる。

輪読や報告に対しての、教員による質疑および助言、批判、評価を通して、質の高い博士論文執筆に向けての高度な専門知識を身につけることができる。なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を1本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【授業の進め方と方法】

「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構想の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースのステップ3のクリアに求められる水準の「全体構想の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	全体構想の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構想について報告
第3回	全体構想の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構想について報告
第4回	全体構想の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構想について報告
第5回	主要章の報告①	全体構想に基づく、博士論文の主要章の報告
第6回	主要章の報告②	全体構想に基づく、博士論文の主要章の報告
第7回	主要章の報告③	全体構想に基づく、博士論文の主要章の報告
第8回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第9回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理
第15回	「全体構想の提示と主要章（論文）」の再検討	博士コース中間報告会での指摘事項により、「全体構想の提示と主要章（論文）」の再検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿の状況などを総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高める。

【学生が準備すべき機器他】

受講生には断った上で、受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することは想定される。

博士演習Ⅲ B

経営学専攻 各指導教員

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースでの3段階の各ステップに基づき、毎回の輪読あるいは報告に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習Ⅲ B では、各ステップで承認された内容に基づいて完成された博士論文をもとに学位申請を行い、審査小委員会の審査・試験の準備を行う。さらに、審査小委員会の修正意見をもとに、博士論文を改善し、修正博士論文を提出し、学位取得を目指す。

なお、ステップ1をクリアしていない場合は、博士演習Ⅰ A のシラバスの内容を、ステップ2をクリアしていない場合は、博士演習Ⅱ A のシラバスの内容を、ステップ3をクリアしていない場合は、博士演習Ⅲ A の内容を実施する。

【到達目標】

博士論文の審査小委員会での修正意見をもとに、博士論文を改し、修正博士論文を提出する。もちろん、修正意見が全くない場合は、修正は不要である。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を1本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【授業の進め方と方法】

博士論文をもとに学位申請を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、審査小委員会の審査・試験の準備を行う。さらに、審査小委員会の修正意見をもとに、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士論文を改善し、修正博士論文を提出し、学位取得を目指す。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	学位申請	博士論文をもとに、学位申請を行う
第2回	審査小委員会の審査、試験の準備①	審査及び試験のための準備を行う
第3回	審査小委員会の審査、試験の準備②	審査及び試験のための準備を行う
第4回	審査小委員会の審査、試験の準備③	審査及び試験のための準備を行う
第5回	審査小委員会の審査、試験の準備④	審査及び試験のための準備を行う
第6回	博士論文の修正①	修正方針に基づき、博士論文の修正を行う
第7回	博士論文の修正②	修正方針に基づき、博士論文の修正を行う
第8回	博士論文の修正③	修正方針に基づき、博士論文の修正を行う
第9回	博士論文の修正④	修正方針に基づき、博士論文の修正を行う
第10回	博士論文の修正⑤	修正方針に基づき、博士論文の修正を行う
第11回	修正博士論文の確認①	修正博士論文の提出前の詳細な確認を行う
第12回	修正博士論文の確認②	修正博士論文の提出前の詳細な確認を行う
第13回	修正博士論文の最終確認	修正博士論文の提出前の詳細な最終確認を行う
第14回	修正博士論文の提出	修正意見をもとにした修正博士論文を提出する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文の完成を目指して、博士論文の執筆を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢などを総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高める。

【その他の重要事項】

受講生には断った上で、受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することは想定される。

博士コースワークショップ I A

経営学専攻 専任教員

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士コースワークショップは、中間報告会、その準備のための副指導教員による指導授業、報告後の指導授業などから構成される。中間報告会は、博士論文執筆が計画的かつ着実に進むように設定された3段階のステップ制に基づいて行われ、複数の教員による質疑及び助言をうける機会であり、博士課程大学院生が互いの研究の技法や情報を共有することで、相互に研鑽が積める場でもある。

博士コースワークショップ I A 授業では、中間報告会での報告に加え、中間報告会への提出論文及び報告がステップ 1 のクリアに求められる「研究計画書」の水準に達するように、副指導教員による指導が行われる。

【到達目標】

博士論文のステップ 1 をクリアできる「研究計画書」の水準として、主要先行論文のサーベイに基づく論点の開示、研究方法、博士論文の構成（章立て）、論文作成スケジュールの提示を含むプロポーザル論文の提出と、それに基づいた報告が求められる。

副指導教員による指導と、中間報告会における複数の教員あるいは博士課程大学院生による質疑および助言を通して、質の高い博士論文執筆に向けての高度な専門知識を身につけることができる。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を 1 本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【授業の進め方と方法】

博士課程大学院生は、毎回の授業で、副指導教員に論文もしくはそれに準ずる文章を提出し報告を行う。

また、中間報告会において、論文もしくはそれに準ずる文章の提出と報告を行い、複数の教員および参加学生による助言や批判を受け、博士論文の質を高める。

なお、中間報告会には、報告しない博士課程大学院生も、全員参加すること。修士課程大学院生、研究生も参加できる。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマと計画の報告	研究テーマや計画、現状の研究成果を副指導教員に報告する
第 2 回	主要先行論文サーベイの報告	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイを副指導教員に報告する
第 3 回	研究方法の報告	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法を副指導教員に報告する
第 4 回	博士論文の構成の報告	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成を副指導教員に報告する
第 5 回	プロポーザル論文執筆指導	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法、博士論文構成に基づいたプロポーザル論文執筆の指導を副指導教員からうける
第 6 回	博士コース中間報告会①	博士コース中間報告会に参加し、「研究計画書」に基づいて報告する。原則、7 月第 1 土曜日を予定である
第 7 回	博士コース中間報告会②	博士コース中間報告会に参加し、「研究計画書」に基づいて報告する。原則、7 月第 1 土曜日を予定である
第 8 回	「研究計画書」の再検討	博士コースワークショップでの指摘事項による「研究計画書」再検討を副指導教員に報告する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士演習はもとより学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を通して、中間報告に向けた事前準備を計画的かつ着実に進める。中間報告終了後には、教員および大学院生からの助言や批判点を整理した上で、論文改善へのフィードバック作業を進める。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

普段の授業への参加、準備、成果に加え、中間報告の提出論文および報告、意見をもとに、指導教員・副指導教員・研究科長が評価し、その結果は専攻教授会で報告され、決定される。A 評価以上の修得者は、ステップ 1 をクリアすることとなり、博士コースワークショップ II A あるいは B を履修可能となる。なお、その場合、博士コースワークショップ I B の履修は不要となる。

【学生の意見等からの気づき】

『博士演習』授業との連携を高める。

博士コースワークショップ I B

経営学専攻 専任教員

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士コースワークショップは、中間報告会、その準備のための副指導教員による指導授業、報告後の指導授業などから構成される。中間報告会は、博士論文執筆が計画的かつ着実に進むように設定された3段階のステップ制に基づいて行われ、複数の教員による質疑及び助言をうける機会であり、博士課程大学院生が互いの研究の技法や情報を共有することで、相互に研鑽が積める場でもある。

博士コースワークショップ I B 授業では、中間報告会での報告に加え、中間報告会への提出論文及び報告がステップ 1 のクリアに求められる「研究計画書」の水準に達するように、副指導教員による指導が行われる。

【到達目標】

博士論文のステップ 1 をクリアできる「研究計画書」の水準として、主要先行論文のサーベイに基づく論点の開示、研究方法、博士論文の構成（章立て）、論文作成スケジュールの提示を含むプロポーザル論文の提出と、それに基づいた報告が求められる。

副指導教員による指導と、中間報告会における複数の教員あるいは博士課程大学院生による質疑および助言を通して、質の高い博士論文執筆に向けての高度な専門知識を身につけることができる。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を 1 本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【授業の進め方と方法】

博士課程大学院生は、毎回の授業で、副指導教員に論文もしくはそれに準ずる文章を提出し報告を行う。

また、中間報告会において、論文もしくはそれに準ずる文章の提出と報告を行い、複数の教員および参加学生による助言や批判を受け、博士論文の質を高める。

なお、中間報告会には、報告しない博士課程大学院生も、全員参加すること。修士課程大学院生、研究生も参加できる。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマと計画の報告	研究テーマや計画、現状の研究成果を副指導教員に報告する
第 2 回	主要先行論文サーベイの報告	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイを副指導教員に報告する
第 3 回	研究方法の報告	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法を副指導教員に報告する
第 4 回	博士論文の構成の報告	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成を副指導教員に報告する
第 5 回	プロポーザル論文執筆指導	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法、博士論文構成に基づいたプロポーザル論文執筆の指導を副指導教員からうける
第 6 回	博士コース中間発表会①	博士コース中間発表会に参加し、「研究計画書」に基づいて報告する。原則、12 月第 3 土曜日を予定している
第 7 回	博士コース中間発表会②	博士コース中間発表会に参加し、「研究計画書」に基づいて報告する。原則、12 月第 3 土曜日を予定している
第 8 回	「研究計画書」の再検討	博士コースワークショップでの指摘事項による「研究計画書」再検討を副指導教員に報告する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士演習はもとより学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を通して、中間報告に向けた事前準備を計画的かつ着実に進める。中間報告終了後には、教員および大学院生からの助言や批判点を整理した上で、論文改善へのフィードバック作業を進める。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

普段の授業への参加、準備、成果に加え、中間報告の提出論文および報告、意見をもとに、指導教員・副指導教員・研究科長が評価し、その結果は専攻教授会で報告され、決定される。A 評価以上の修得者は、ステップ 1 をクリアすることとなり、博士コースワークショップ II A あるいは B を履修可能となる。

【学生の意見等からの気づき】

『博士演習』授業との連携を高める。

博士コースワークショップ II A

経営学専攻 専任教員

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士コースワークショップは、中間報告会、その準備のための副指導教員による指導授業、報告後の指導授業などから構成される。中間報告会は、博士論文執筆が計画的かつ着実に進むように設定された3段階のステップ制に基づいて行われ、複数の教員による質疑及び助言をうける機会であり、博士課程大学院生が互いの研究の技法や情報を共有することで、相互に研鑽が積める場でもある。博士コースワークショップ II A 授業では、中間報告会での報告に加え、中間報告会への提出論文がステップ 2 のクリアに求められる「サーベイ論文と構成章（論文）」の水準に達するように、副指導教員による指導が行われる。

【到達目標】

博士論文のステップ 2 となる「サーベイ論文と構成章（論文）」として、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも 1 章）となる論文の提出と、それに基づいた報告が求められる。

副指導教員による指導と、中間報告会における複数の教員あるいは博士課程大学院生による質疑および助言、批判、評価を通して、質の高い博士論文執筆に向けての高度な専門知識を身につけることができる。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を 1 本以上含む必要があるので留意すること。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【授業の進め方と方法】

博士課程大学院生は、毎回の授業で、副指導教員に、論文もしくはそれに準ずる文章を提出し報告を行う。

また、中間報告会において、論文もしくはそれに準ずる文章の提出と報告を行い、複数の教員および参加学生による助言や批判を受け、博士論文の質を高める。

なお、中間報告会には、報告しない博士課程大学院生も、全員参加すること。修士課程大学院生、研究生も参加できる。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	「研究計画書」の再検討及び現状の研究成果の報告	「研究計画書」の再検討の結果、及びそれに基づく研究成果を副指導教員に報告する
第 2 回	先行論文サーベイと、研究報告①	「研究計画書」に基づく先行論文のサーベイと、研究の位置づけを副指導教員に報告する
第 3 回	先行論文サーベイと、研究報告②	「研究計画書」に基づく先行論文のサーベイと、研究の位置づけを副指導教員に報告する
第 4 回	博士論文を構成する章の報告①	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成を副指導教員に報告する
第 5 回	博士論文を構成する章の報告②	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成を副指導教員に報告する
第 6 回	博士コース中間報告会	博士論文の中間報告会に参加し、提出した「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づいて報告する。原則、7 月第 1 土曜日を予定している
第 7 回	博士コース中間報告会②	博士論文の中間報告会に参加し、提出した「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づいて報告する。原則、7 月第 1 土曜日を予定している
第 8 回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討	中間報告会での指摘事項により、「サーベイ論文と構成章（論文）」を再検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士演習はもとより学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を通して、中間報告に向けた事前準備を計画的かつ着実に進める。中間報告終了後には、教員および大学院生からの助言や批判点を整理した上で、論文改善へのフィードバック作業を進める。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

中間報告の論文および報告をもとに、指導教員、副指導教員、研究科長により評価し、その結果は専攻教授会で報告され、決定される。A 評価以上の修得者は、ステップ 2 をクリアすることとなり、ステップ 3 の博士コースワークショップ III A あるいは B を履修可能となる。

なお、博士コースワークショップ II B の履修は不要となるが、報告しない場合も、博士コース中間報告会には、全員参加すること。

【学生の意見等からの気づき】

「博士演習」との連携を高める

【その他の重要事項】

博士コースワークショップ I A または B において、A 評価以上の修得者のみ、履修可能である

博士コースワークショップ II B

経営学専攻 専任教員

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士コースワークショップは、中間報告会、その準備のための副指導教員による指導授業、報告後の指導授業などから構成される。中間報告会は、博士論文執筆が計画的かつ着実に進むように設定された3段階のステップ制に基づいて行われ、複数の教員による質疑及び助言をうける機会であり、博士課程大学院生が互いの研究の技法や情報を共有することで、相互に研鑽が積める場でもある。博士コースワークショップ II B 授業では、中間報告会での報告に加え、中間報告会への提出論文がステップ 2 のクリアに求められる「サーベイ論文と構成章（論文）」の水準に達するように、副指導教員による指導が行われる。

【到達目標】

博士論文のステップ 2 となる「サーベイ論文と構成章（論文）」として、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも 1 章）となる論文の提出と、それに基づいた報告が求められる。

副指導教員による指導と、中間報告会における複数の教員あるいは博士課程大学院生による質疑および助言、批判、評価を通して、質の高い博士論文執筆に向けての高度な専門知識を身につけることができる。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を 1 本以上含む必要があるので留意すること。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【授業の進め方と方法】

博士課程大学院生は、毎回の授業で、副指導教員に、論文もしくはそれに準ずる文章を提出し報告を行う。

また、中間報告会において、論文もしくはそれに準ずる文章の提出と報告を行い、複数の教員および参加学生による助言や批判を受け、博士論文の質を高める。

なお、中間報告会には、報告しない博士課程大学院生も、全員参加すること。修士課程大学院生、研究生も参加できる。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	「研究計画書」の再検討及び現状の研究成果の報告	「研究計画書」の再検討の結果、及びそれに基づく研究成果を副指導教員に報告する
第 2 回	先行論文サーベイと、研究報告①	「研究計画書」に基づく先行論文のサーベイと、研究の位置づけを副指導教員に報告する
第 3 回	先行論文サーベイと、研究報告②	「研究計画書」に基づく先行論文のサーベイと、研究の位置づけを副指導教員に報告する
第 4 回	博士論文を構成する章の報告①	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成を副指導教員に報告する
第 5 回	博士論文を構成する章の報告②	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成を副指導教員に報告する
第 6 回	博士コース中間報告会	博士論文の中間報告会に参加し、提出した「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づいて報告する。原則、12 月第 3 土曜日を予定している
第 7 回	博士コース中間報告会②	博士論文の中間報告会に参加し、提出した「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づいて報告する。原則、12 月第 3 土曜日を予定している
第 8 回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討	中間報告会での指摘事項により、「サーベイ論文と構成章（論文）」を再検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士演習はもとより学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を通して、中間報告に向けた事前準備を計画的かつ着実に進める。中間報告終了後には、教員および大学院生からの助言や批判点を整理した上で、論文改善へのフィードバック作業を進める。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

中間報告の論文および報告をもとに、指導教員、副指導教員、研究科長により評価し、その結果は専攻教授会で報告され、決定される。A 評価以上の修得者は、ステップ 2 をクリアすることとなり、ステップ 3 の博士コースワークショップ III A あるいは B を履修可能となる。

なお、博士コースワークショップ II B の履修は不要となるが、報告しない場合も、博士コース中間報告会には、全員参加すること。

【学生の意見等からの気づき】

「博士演習」との連携を高める

【その他の重要事項】

博士コースワークショップ I A または B において、A 評価以上の修得者のみ、履修可能である

博士コースワークショップ III A

経営学専攻 専任教員

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士コースワークショップは、中間報告会、その準備のための副指導教員による指導授業、報告後の指導授業などから構成される。中間報告会は、博士論文執筆が計画的かつ着実に進むように設定された3段階のステップ制に基づいて行われ、複数の教員による質疑及び助言をうける機会であり、博士課程大学院生が互いの研究の技法や情報を共有することで、相互に研鑽が積める場でもある。博士コースワークショップ III A 授業では、中間報告会での報告に加え、中間報告会への提出論文がステップ3のクリアに求められる「全体構想の提示と主要章（論文）」の水準に達するように、副指導教員による指導が行われる。

【到達目標】

博士論文のステップ3となる「全体構想の提示と主要章（論文）」の水準として、博士論文全体構想の提示と、博士論文を構成する主要章となる論文の提出と、それに基づいた報告が求められる。

副指導教員による指導と、中間報告会における複数の教員あるいは博士課程大学院生による質疑および助言、批判、評価を通して、質の高い博士論文執筆に向けての高度な専門知識を身につけることができる。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を1本以上含む必要があるので留意すること。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【授業の進め方と方法】

博士課程大学院生は、毎回の授業で、副指導教員に論文もしくはそれに準ずる文章を提出し報告を行う。

また、中間報告会において、論文もしくはそれに準ずる文章の提出と報告を行い、複数の教員および参加学生による助言や批判を受け、博士論文の質を高める。

なお、中間報告会には、報告しない博士課程大学院生も、全員参加すること。修士課程大学院生、研究生も参加できる。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果、及びそれに基づく現状の研究成果を副指導教員に報告する
第2回	博士論文全体構想の提示と検討	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構想について副指導教員に報告する
第3回	博士論文全体構想の提示と検討②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構想について副指導教員に報告する
第4回	主要章の報告①	全体構想に基づく博士論文の主要章を副指導教員に報告する
第5回	主要章の報告②	全体構想に基づく博士論文の主要章を副指導教員に報告する
第6回	博士コース中間報告会	博士コースの中間報告会に参加し、博士論文の「全体構想」を提示するとともに、主要章の論文を報告する。原則、7月第1土曜日を予定している。
第7回	博士コース中間報告会②	博士コースの中間報告会に参加し、博士論文の「全体構想」を提示するとともに、主要章の論文を報告する。原則、7月第1土曜日を予定している。
第8回	「全体構想の提示と主要章（論文）」の再検討	中間報告会での指摘事項により、「全体構想の提示と主要章（論文）」の再検討を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士演習はもとより学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を通して、中間報告に向けた事前準備を計画的かつ着実に進める。中間報告会終了後には、教員および大学院生からの助言や批判点を整理した上で、論文改善へのフィードバック作業を進める。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

中間報告の論文および報告、意見をもとに、指導教員、副指導教員、研究科長により評価し、その結果は専攻教授会で報告され、決定される。

なお、博士コースワークショップ III B の履修は不要となるが、報告しない場合も、博士論文中間報告には、全員参加すること。

【学生の意見等からの気づき】

「博士演習」授業との連携を高める。

【その他の重要事項】

博士コースワークショップ II A または B において、A 評価以上の修得者のみ、履修可能である。

博士コースワークショップ III B

経営学専攻 専任教員

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士コースワークショップは、中間報告会、その準備のための副指導教員による指導授業、報告後の指導授業などから構成される。中間報告会は、博士論文執筆が計画的かつ着実に進むように設定された3段階のステップ制に基づいて行われ、複数の教員による質疑及び助言をうける機会であり、博士課程大学院生が互いの研究の技法や情報を共有することで、相互に研鑽が積める場でもある。博士コースワークショップIII B 授業では、中間報告会での報告に加え、中間報告会への提出論文がステップ3のクリアに求められる「全体構想の提示と主要章(論文)」の水準に達するように、副指導教員による指導が行われる。

【到達目標】

博士論文のステップ3となる「全体構想の提示と主要章(論文)」の水準として、博士論文全体構想の提示と、博士論文を構成する主要章となる論文の提出と、それに基づいた報告が求められる。

副指導教員による指導と、中間報告会における複数の教員あるいは博士課程大学院生による質疑および助言、批判、評価を通して、質の高い博士論文執筆に向けての高度な専門知識を身につけることができる。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された(掲載予定を含む)論文を1本以上含む必要があるので留意すること。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【授業の進め方と方法】

博士課程大学院生は、毎回の授業で、副指導教員に論文もしくはそれに準ずる文章を提出し報告を行う。

また、中間報告会において、論文もしくはそれに準ずる文章の提出と報告を行い、複数の教員および参加学生による助言や批判を受け、博士論文の質を高める。

なお、中間報告会には、報告しない博士課程大学院生も、全員参加すること。修士課程大学院生、研究生も参加できる。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章(論文)」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章(論文)」の再検討の結果、及びそれに基づく現状の研究成果を副指導教員に報告する
第2回	博士論文全体構想の提示と検討	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章(論文)」に基づき、博士論文全体の構想について副指導教員に報告する
第3回	博士論文全体構想の提示と検討②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章(論文)」に基づき、博士論文全体の構想について副指導教員に報告する
第4回	主要章の報告①	全体構想に基づく博士論文の主要章を副指導教員に報告する
第5回	主要章の報告②	全体構想に基づく博士論文の主要章を副指導教員に報告する
第6回	博士コース中間報告会	博士コースの中間報告会に参加し、博士論文の「全体構想」を提示するとともに、主要章の論文を報告する。原則、12月第3土曜日を予定している。
第7回	博士コース中間報告会②	博士コースの中間報告会に参加し、博士論文の「全体構想」を提示するとともに、主要章の論文を報告する。原則、12月第3土曜日を予定している。
第8回	「全体構想の提示と主要章(論文)」の再検討	中間報告会での指摘事項により、「全体構想の提示と主要章(論文)」の再検討を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士演習はもとより学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を通して、中間報告に向けた事前準備を計画的かつ着実に進める。中間報告会終了後には、教員および大学院生からの助言や批判点を整理した上で、論文改善へのフィードバック作業を進める。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

中間報告の論文および報告、意見をもとに、指導教員、副指導教員、研究科長により評価し、その結果は専攻教授会で報告され、決定される。

なお、報告しない場合も、博士論文中間報告には、全員参加すること。

【学生の意見等からの気づき】

「博士演習」授業との連携を高める。

【その他の重要事項】

博士コースワークショップII A または B において、A 評価以上の修得者のみ、履修可能である。